

東北地方 1か月予報

(8月21日から9月20日までの天候見通し)

平成16年8月20日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

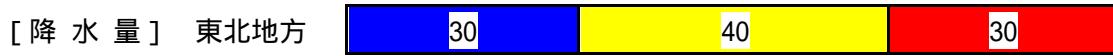
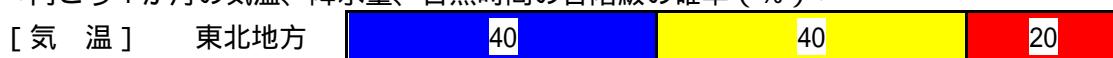
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は、気圧の谷や前線の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並か低い、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並か低い、2週目は平年並か低い、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 8月21日(土) ~ 9月20日(月)

1週目 : 8月21日(土) ~ 8月27日(金)

2週目 : 8月28日(土) ~ 9月3日(金)

3~4週目 : 9月4日(土) ~ 9月17日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は8月27日

3か月予報：8月25日(水) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	20.9	240.9	129.0	22.6	21.9	20.1
新庄	21.2	173.3	134.0	23.3	22.3	20.1
若松	22.1	140.9	154.4	24.3	23.3	21.0
深浦	20.8	182.7	167.2	22.6	21.8	19.9
青森	20.7	138.9	171.2	22.4	21.6	19.8
むつ	19.6	182.5	143.4	21.1	20.5	18.8
八戸	20.2	186.7	150.0	21.8	21.1	19.5
秋田	21.9	201.2	172.9	24.0	23.0	20.9
盛岡	20.4	191.0	131.4	22.6	21.5	19.3
宮古	20.2	232.0	133.4	21.9	21.1	19.4
酒田	22.4	206.3	171.5	24.4	23.4	21.4
山形	21.9	157.3	147.5	24.0	23.1	20.8
仙台	22.0	216.6	128.3	23.7	23.0	21.2
石巻	21.6	165.4	146.1	23.2	22.5	20.8
福島	22.7	173.2	127.3	24.7	23.9	21.7
白河	21.0	251.9	126.0	22.8	22.1	20.1
小名浜	22.7	190.4	159.1	23.9	23.6	22.1

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.4	84~116	93~106
東北日本海側	-0.5~+0.6	85~109	93~107
東北太平洋側	-0.4~+0.3	81~120	90~108

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.5~+0.7	-0.7~+0.7	-0.5~+0.6
東北日本海側	-0.5~+0.7	-0.7~+0.8	-0.6~+0.6
東北太平洋側	-0.5~+0.8	-0.6~+0.8	-0.5~+0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年8月20日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(8月21日~9月20日):

天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は、気圧の谷や前線の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

1週目(8月21日~8月27日):

期間の初めは高気圧に覆われて晴れますが、その後は気圧の谷や前線の影響で曇りの日が多く、期間の中頃は雨の降る日があるでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

2週目(8月28日~9月3日):

天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3~4週目(9月4日~9月17日):

天気は数日の周期で変わるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

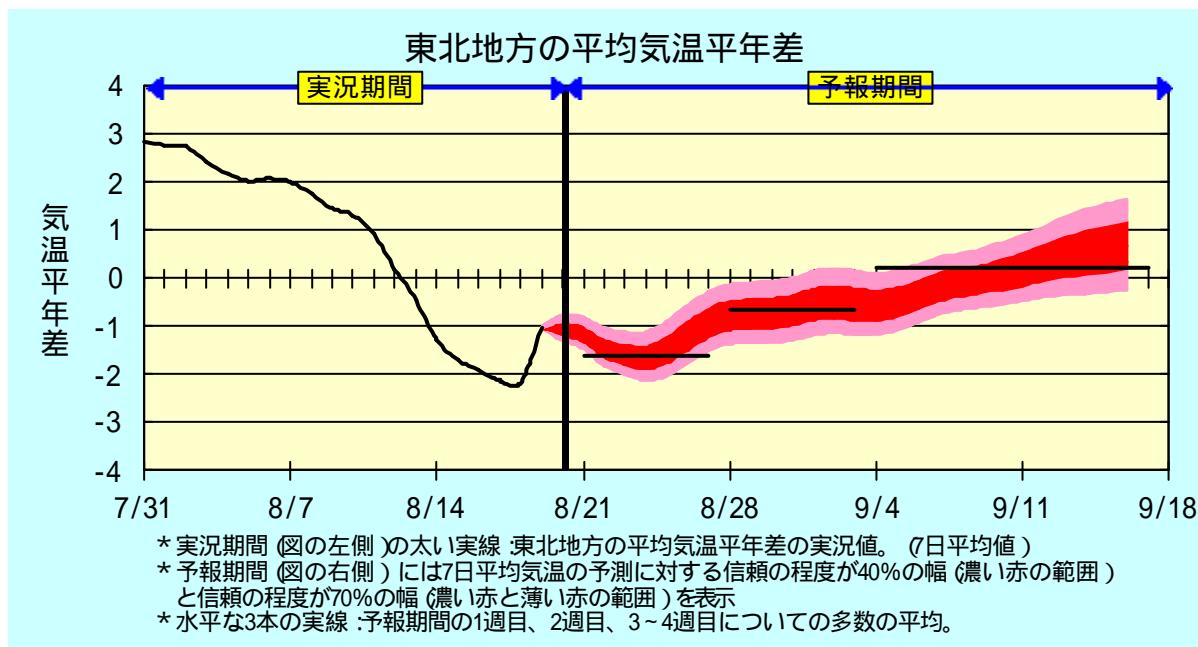
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	14.3日	3.8日	3.9日	6.6日
東北太平洋側	12.2日	3.3日	3.3日	5.6日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目を「低い」、2週目を「平年並」、3~4週目を「平年並」と予想している。予報は、週間予報資料などから1,2週目を「平年並か低い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

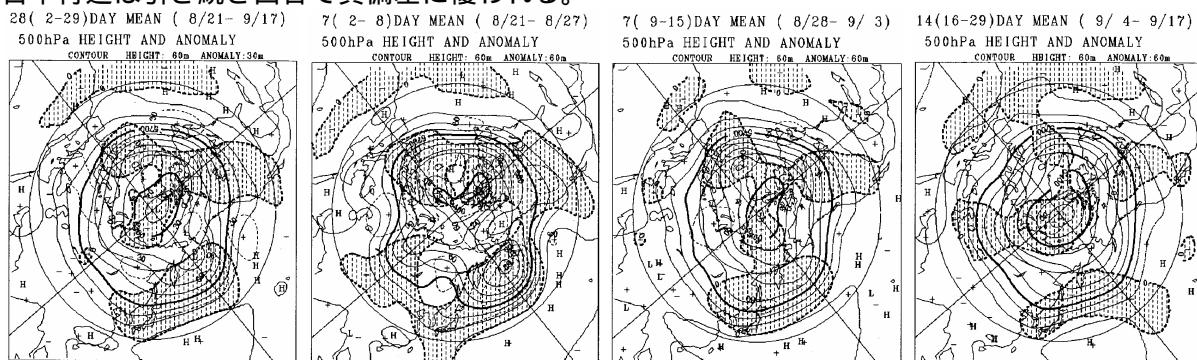


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日付変更線付近に深い気圧の谷があり、一方、サハリンから日本にかけても気圧の谷が見られる。負偏差が広く日本付近を覆う。亜熱帯高気圧の日本付近への張り出しが弱い。

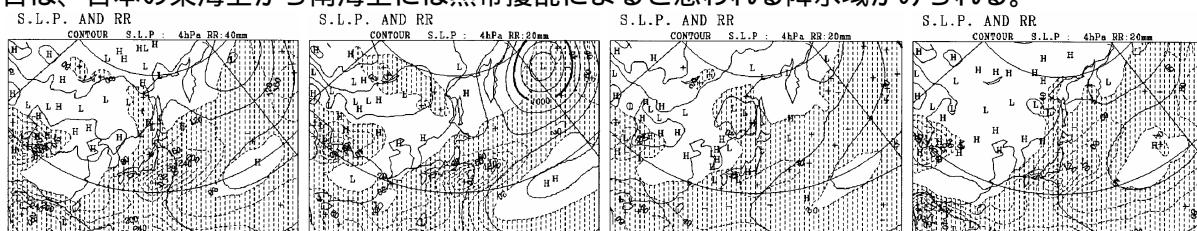
1週目は、カムチャツカ半島の東に強い低気圧部。日本付近は西谷で負偏差に覆われる。2週目は、逆位相の中を日本付近に気圧の谷が入り、流れはゾーナルから西谷傾向で、負偏差に覆われる。亜熱帯高気圧の北への張り出しが弱い。3~4週目は、サハリンから東シナ海にかけては谷場で、日本付近は引き続き西谷で負偏差に覆われる。



地上気圧と降水量：

月平均では、日本の南海上を中心にまとまった降水域が見られる。

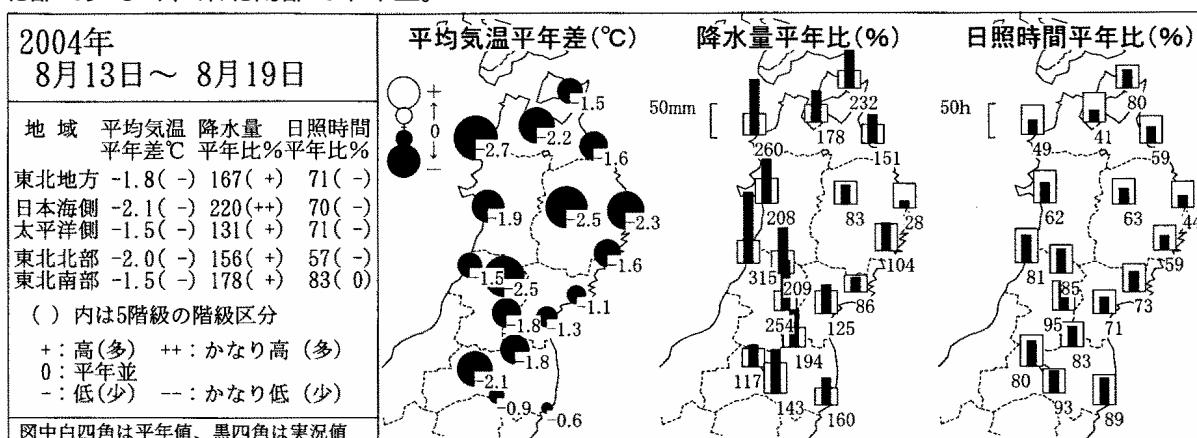
1週目はカムチャツカ半島の東に強い低気圧があり、日本の東から南海上はまとまった降水域となる。2週目は、太平洋高気圧が日本の南海上に張り出しが、北への張り出しが弱い。3~4週目は、日本の東海上から南海上には熱帯擾乱によると思われる降水域がみられる。



4. 最近1週間(8月13日~8月19日)の天候の経過

13日に東北南部では晴れて気温が高くなったが、その後は前線や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなった。18~19日は台風第15号の影響により前線の活動が活発化して、東北日本海側では大雨となった所があった。

平均気温は低い。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側が多い。日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)